



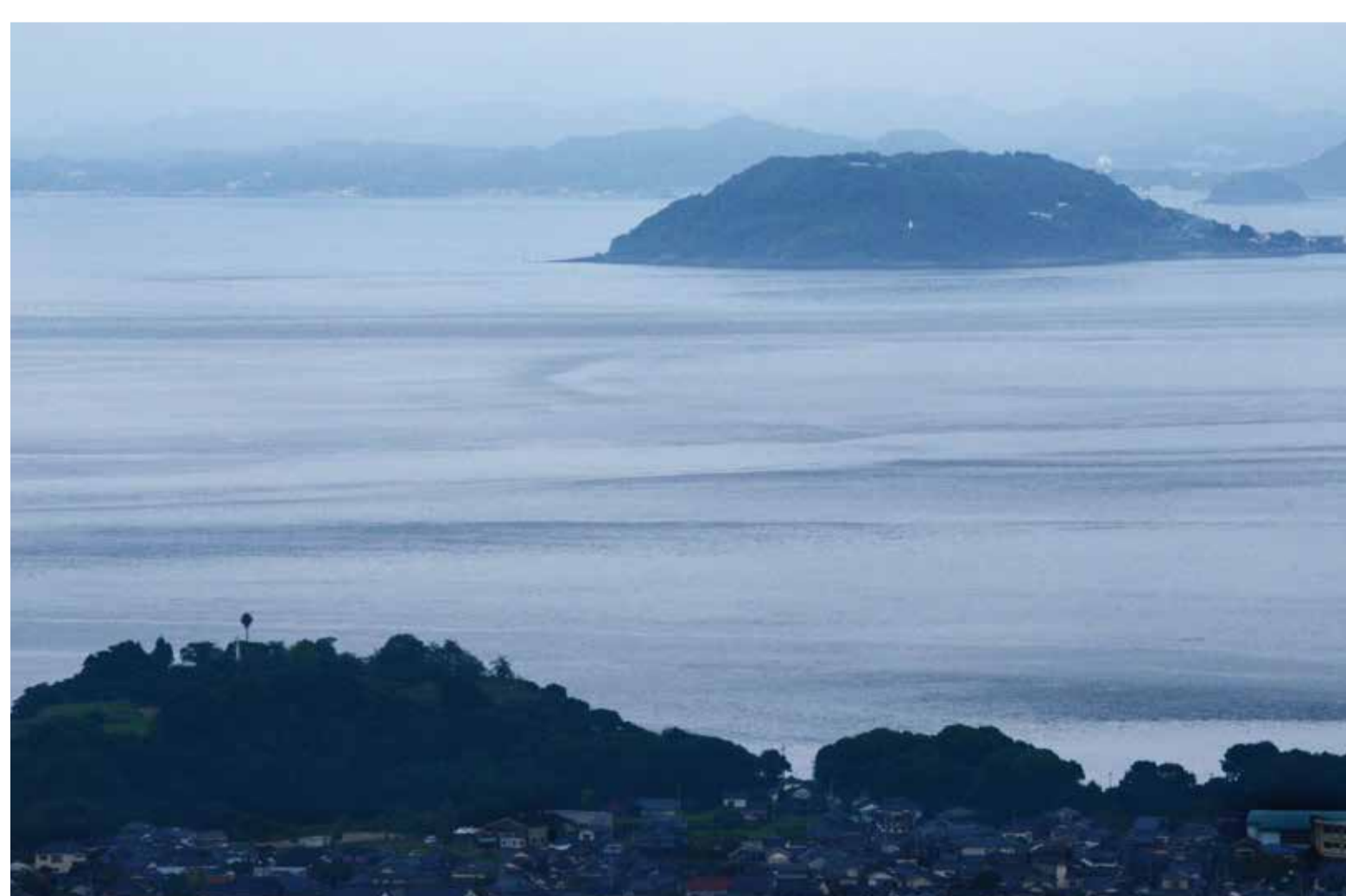
はらじょうあと

1 原城跡

1. Remains of Hara Castle

「原城跡」は、キリシタンが何をきっかけとして「潜伏」することになったのかを示す構成資産である。全国的に禁教政策が進む中、原城を主戦場として起きた「島原・天草一揆」は、江戸幕府に大きな衝撃を与え、カトリック宣教師の潜入の可能性のあるポルトガル船の来航の禁止と2世紀を越える海禁体制（鎖国）の確立、これに続く国内宣教師の不在という状況をもたらした。

これによってキリシタンは「潜伏」し、自分たち自身でひそかに信仰を実践し、移住先を選択するという試みを行っていくこととなった。



撮影：池田勉



全て南島原市有馬キリシタン遺産記念館所蔵

手前左の小高い丘が原城跡、海をはさんで奥が天草諸島、間に浮かぶ島が湯島である。天草諸島の住民は、海を渡って「島原・天草一揆」に加わった。また、湯島は、一揆勢の首謀者がしばしば密談したことから「談合島」とも呼ばれている。

原城跡の発掘調査により、キリスト教の伝来期に宣教師から授かり、ひそかに所持していたメダイや鉄砲玉を原料に自作した十字架などのキリシタンの信心具が出土した。多量の人骨も出土しており、この地域の百姓たちが組織的に一揆に参加していたことがうかがえる。